ニチレイとニチレイロジ

3PLの取組み紹介
第4回ロジセミナー開く

松田浩社長

ニチレイとニチレイロジグループ本社は12日、第4回ロジスティクス・ソリューションセミナーを経団連会館で開催。冒頭、ニチレイロジグループの松田浩社長は、今年度最終年度となる中期経営計画「ライジング2015」に触れ、国内は首都圏（東扇島）と関西圏（咲洲）に大型施設を拡充したこと、地方は保管と輸配送ネットワーク機能の統合を進め、後は来年4月の九州を残すだけとなったことや十勝物流センターを稼働させたこと、海外は欧州のクロスボーダー機能を強化させたことや英国進出の足がかりをつくったこと、アジアはタイに保管と輸配送機能を一体化した冷蔵倉庫を整備したことなどを説明。「タイ～欧州～日本の国際一貫複合輸送を構築し、価値向上と食品業界の発展に寄与していく」決意を述べた。

基調講演は、一橋大学大学院の楠木建教授が企業経営で当たり前のことを当たり前のように行う極意を披露。

続いて、ロジスティクス・プランナーが3PL企業として食品企業間の連携をコーディネートしたSCMの取り組みを、ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリングが低温物流を支えるエンジニアリング3PLの取り組みとしてメンテナンスなど設備面のコスト抑制策を紹介した。

増収、2ケタの増益
鴻池運輸

鴻池運輸の2016年3月期連結中間決算は、売上高1261億2000万円（前年同期比4・1％増）、営業利益57億3400万円（同12・0％増）、経常利益57億7900万円（同11・5％増）、純利益33億7100万円（同13・7％増）。

食品関連分野や生活関連分野の新規拠点における取扱量増や、空港関連分野のグランドハンドリング業務の伸長などで増収、2ケタの増益となった。

セグメント別売上は、複合ソリューション事業848億5000万円（同5・0％増）、国際物流事業244億8200万円（同1・0％増）、国際物流事業168億2200万円（同4・4％増）。

通期予想は前回（8月）公表と変わらず。

日通総研

WMS導入実践講座
12月8日

日通総合研究所は12月8日（火）、「WMS導入実践講座～WMS開発ベンダー選定の極意・ベンダーランキング～」を開催する。講師はロジスティクス・システム研究所　主任研究員の實藤政子氏。

はじめにロジスティクスにかかわるシステムの全体を説明。その中でWMSの位置付け・役割・ビル3階　会議室A（東京都港区東新橋9－3）。参加料金込み2万2000円（WMSベンダーの現状とソリューション内容・具体的事例を紹介する。

時間は午後1時～5時。場所は日本通運本社から。

目的を共有し、構築に向けた基礎知識と効率的で失敗しないWMS導入の進め方を解説。後半では、員50人（最小開催人人、定員り次第締る）。申みは日通総研Webト（www.nitsu-soken.jp/semin

OCHISがお届けする

ゆるく・やさしく 健康管理 9

あたまの健康チェック

ずいぶんご無沙汰をしてしまいました。今回は、直近の大事件に関連して、「あたまの健康」をテーマとしました。

10月28日、JR宮崎駅前で暴走運転により、死亡2人を含めた7人の死傷者を出した悲惨な大事故は、運転者が73歳、認知症の治療で2日前まで入院していたこと、しかもてんかんの病歴もあったことが判明しています。

事故の原因と思われるこれらの病気については、道路交通法において運転業務が禁止されているのですが、その運用面に問題を残してはいないかなど、「高齢運転者と認知症」「運転に影響を及ぼす病気」などについて、多くの人が改めて考えさせられるきっかけになったのではないでしょうか。

特に運転事業者においては、ドライバー不足による雇用延長制度を背景に、高齢ドライバーの急増が予想されます。この問題は運輸事業者にとって最重要テーマであることを語っています。

そこで、今回は認知症について緊急に取り上げました。

■認知症高齢者は4人に1人

2013年に発表された厚生労働省のデータでは、65歳以上の高齢者の4人に1人が認知症あるいは予備軍であることが示されています。急激な高齢社会を目前に、国・地方など行政もその対策に奔走しているのが実態です。

早期発見のためのチェック項目を紹介します。あなたは大丈夫でしょうか。

・ここ数週間で自分の言ったことの詳細が思い出せない

・やると言ったことをやることがある

該当項目が多かっては医療機関に足を運ることをお勧めします。

■物忘れとの違い

ある程度の年齢になると、物忘れも多くなっちょっとして?」という安もよぎります。しかし

・最近の出来事や会話が思い出せないことがある

・既に言ったことを忘れ、同じ話や冗談を同じ人にいってしまうことがある

・銀行残高を計算したり、旅行の計画をしたりするなど複雑な作業が困難なり忘れることがある

認知症との大きな違いは、忘れたかどうかの自覚の有無です。つまり「忘れた」という自覚のない場合は、ちょっと危なく、物忘れの進行が急速に進む場合は、認知症の疑いが濃厚となります。